

草の根獣医、家畜飼育技術普及ボランティア およびモデル畜舎オーナーによる活動中間評価ワークショップ

1. 中間評価の概要

事業開始から9ヶ月間が経過し、本事業実施期間である1年間の3/4が経過した。事業期間が1年間と短く、期間内に達成できる成果や目標には限界があるが、本事業の効果が今後も継続発展していくためには地域での家畜飼育環境整備を担う草の根獣医（VLA=Village Livestock Agency）および家畜飼育技術普及ボランティア（VLV=Village Livestock Volunteer）が自ら活動の目標を設定し、活動計画を策定することがきわめて重要であると考えられる。本中間評価はそうした目的からPLAの手法を用いて、VLAおよびVLVが主体的に中間評価を実践した。

中間評価は以下の要領で実施された。

日 時： 2003年4月2日 午前8：15～11：00、午後1：30～4：00
場 所： チューティール村 （スパイチュルン郡チューティール地区）
参加者： VLV 9名、VLA 1名、モデル畜舎オーナー 6名（うち4名はVLV）、女性組合リーダー1名
ファシリテーター： IVYスタッフ 3名

2. 中間評価の内容

6ヶ月間（2002年9月～2003年2月）におよぶ家畜飼育技術普及ボランティア（VLV）へのトレーニングが終了し、今後はIVY家畜指導員にフォローアップを受けながらVLVが各自で飼育実践を行い、VLAとの協力のもと地域住民への技術普及活動を実施する。これにあたり、今後の具体的な普及活動についての目標および行動計画を策定するために、以下の点を本ワークショップの論点とした。

- 1) 地域内での家畜飼育の状況を把握し、問題を分析する。
- 2) 地域内で発生している家畜飼育に関わる問題の対処法について議論する。
- 3) VLVおよびVLAの今後の活動についての目標を設定する。
- 4) VLVの今後の普及活動についての行動計画を作成する。

3. 家畜飼育の現状と問題点の把握 [直接観察、インタビュー]

地域での家畜飼育の現状や問題点などを把握し、また、今後の普及活動においてどういった点に注意して観察を行うのかという点についての確認を行うため、参加者は2つのグループに別れそれぞれ地域内の2軒の家庭を実際に訪問し、家畜の状態、家畜飼育の環境などの観察、および家畜所有者への聞き取りなどを行った。その結果、参加者からは以下の点が指摘された。

観察、聞き取りのポイント	気がついた点、問題点
1. 豚舎、鶏舎の設置、管理	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 鶏舎が設置されていない家庭が多く、鶏が家の軒下で休息を取っている。 ➢ 鶏舎が設置されている家庭でも、きちんと清掃がされておらず、衛生状態が良くない。 ➢ 豚舎の設置には興味がない家庭が多い。
2. 家畜の餌	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 鶏に対して、粃や白米、くず米しか与えていない。 ➢ 餌箱などを利用しておらず、地面に直接餌を撒いている。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 雛と成鶏を分けずに、同時に餌を与えている。 ➤ 豚に対しては米ぬかと残飯しか与えていない。
3. 水、衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 鶏や豚に与える水が不衛生であり、あまり頻繁に入れ替えていない。 ➤ 家畜の病気を防除する手段（ワクチン接種、薬草の利用）が行われていない。
4. 品種、子豚、鶏の選定	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 鶏に関しては同一の品種だけが飼育されており、近親交配が進んでいる。
5. 飼育全般	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 家畜飼育は基本的にこれまでの慣習に従って行われている。 ➤ 特に鶏や豚の品種の選定についての知識が不足している。 ➤ 家畜の餌に関してはたんぱく質のほか、野菜などの不足からビタミンなどの要素が不足している。

4. 問題の分析 [スケーリング・クエスチョン]

以上の家畜飼育の現状や問題点を踏まえ、以下のとおりの提案が参加者よりなされた。

- 1) 家畜の病気の発生や伝染を防ぎ、また、悪臭などによる人間生活への影響を避けるために、豚舎や鶏舎の設置を普及することが重要である。
- 2) 鶏の給仕に関して、餌を直接地面に撒くのではなく、マットや麻袋等を利用しその上に撒くようにすることが望ましい。また、雛が十分に餌を摂取することができるよう、雛だけを籠などで囲い他の鶏とは分けて餌を与えるようにすることが望ましい。
- 3) 給水に関しては清潔なポットやボトルなどを用意し、薬草などを浸して病気の予防にも役立つことが重要である。
- 4) 清潔な水を与えるとともに、鶏舎は毎日掃除を行うことが望ましく、衛生状態が良好に保たれる必要がある。
- 5) 鶏の交配に関して、長期間にわたり同一の血統の鶏を利用することは好ましくなく、定期的に別の血統の鶏を利用することが重要である。
- 6) 一般的に地域での家畜飼育に関して、より十分な家畜の管理と病気の予防が必要である。特に病気の予防に関してはワクチン接種のほか、薬草の利用などが有効であると考えられる。
- 7) 鶏舎に関しては多くの住民が興味を示しているが、特に夜間の治安の問題から、家から離れたところには設置しにくい。

上記の点が達成された場合を地域での家畜飼育に関する最高の状態として、10点満点で2つのグループがそれぞれ現状を評価し、今後の普及活動で重要となる点についての議論を行った。

[グループ1]

現状の評価： 5点

普及、改善すべき点：

- 特に豚舎や鶏舎の重要性を普及する必要がある。
- ワクチンの接種や薬草の利用によって、病気の予防に関する意識を高める必要がある。

[グループ2]

現状の評価： 6.5点

普及、改善すべき点：

- 鶏の血統についての知識を普及する。
- 野菜などを含めたバランスの取れた十分な栄養価を持つ餌についての知識を普及する。
- ワクチン接種や薬草の利用による病気の予防についての知識を普及する。

5. 活動目標の設定 [KJ法]

これまでに議論されてきた家畜飼育に関する問題点や現状では一般住民の技術や知識が不足していると思われる点についてのブレインストーミングを行い、参加者ごとに紙片に書き出した。その後、類似する内容の紙片をグループ化し、以下の点が主要な問題点として提示された。

- 村では血統の良い子豚や鶏が不足している。
- 家畜の餌の質が悪く、特にたんぱく質や野菜などが不足している。
- 住民が豚舎の重要性を認識しておらず、豚が放し飼いにされている。
- 家畜飼育においては多くの病気が発生している。
- 家畜飼育に関する基礎知識や衛生に関する知識が不足している。

主に上記の問題点を解決すべく、今後どのような活動を実施することができるのかについての議論が行われ、その結果、以下の点がV L Vの今後の活動目標として設定された。

- 1) V L Vは母豚飼育を実施し、地域住民に良い血統の子豚を提供する。
- 2) V L Vは家庭菜園等での野菜栽培を実施し餌の栄養改善に努め、地域住民に対して餌の改善の重要性を説明し、餌の改善の普及に努める。
- 3) V L Vは自らの家庭に豚舎や鶏舎を設置し飼育のモデルを地域住民に提示すると同時に、その重要性を説明し豚舎、鶏舎の普及に努める。
- 4) V L Vは家庭訪問や会議の開催などによって今後の普及活動を強化し、特に、基本的な家畜飼育技術の普及や薬草の利用方法についての技術、知識普及に努める。

6. 活動計画の策定

上記の目標を達成するために、それぞれの項目について具体的な行動計画を策定した。

今後の活動計画

内容	普及方法	実施者	実施期間	普及目標
1. 母豚飼育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い母豚となりそうな豚を地域外から選定する。 ・ V L Aと協力し、試験的に母豚飼育に取り組む。 	V L V V L A 地域住民	2003年5月 ～ 2004年5月	2004年5月までに3家庭で実施される。
2. 餌の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭菜を実施し、地域住民を見学に来る。 ・ ワークショップの開催。 ・ 家庭訪問の実施。 ・ その他の機会や会合など日常のコミュニケーションでの普及。 	V L V 女性組合 地域住民	2003年5月 ～ 2004年5月	2004年5月までに25家庭で実施される。
3. 畜舎の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畜舎の重要性に関する知識普及の実施。 ・ ワークショップの開催。 ・ 家庭訪問の実施。 ・ その他の機会や会合など日常のコミュニケーションでの普及。 	V L V 女性組合 地域住民	2003年5月 ～ 2004年5月	2004年5月までに6家庭で実施される。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畜舎を設置し、地域住民を見学に招く。 			
4. 基礎飼育	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチン接種の実施。 ・ 基礎飼育知識の普及。 ・ ワークショップの開催。 ・ 家庭訪問の実施。 ・ その他の機会や会合など日常のコミュニケーションでの普及。 	VLV 女性組合 地域住民	2003年5月 ～ 2004年 5月	2004年5月 までに25家庭 で実施される。

7. 普及標語の設定

今後の普及活動に関して、より住民からの理解が得やすいように参加者によって普及のためのスローガンが発案され、以下の4つをスローガンとして今後の普及活動に活かすこととなった。

選ばれたスローガン（原文はクメール後）

- VLVは家畜飼育に関する責任を負い、家畜の伝染病を絶滅します！
- 良い血統の家畜は、成育が早く、より多くの利益をもたらします！
- 家畜の管理不良は、飼育の失敗につながります！
- 良い血統、良い管理で収入は増加し、生活は改善します！

8. 最後に

今回のワークショップで確認された点は、これまでも繰り返し問題点として提起されてきた点がほとんどであったが、実際に家庭を訪問しその状況を分析することで、今後の普及活動に具体性が持てたのではないかと思う。ただ、VLVの女性たちが活動計画の中でも示しているように、まずはVLV自身が自分の家庭で学んだ技術を実践し、経験によって技術の適正を確認することが、普及活動を活発化させる以前に重要であると思われる。

家畜飼育技術ボランティアとして養成された9名の女性たちは、技術や知識という面では今後もさらなるフォローアップが必要であるものの、普及活動に対して大変意欲的である様子が伺える。そうした中、今回のワークショップでは実際にどのような普及活動を実施するのか、具体的な案が出されたという点で今後の普及活動を促進するものとなるのではないかと思う。

以上

山崎 勝
IVY農業ディレクター